

この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第12回



大西博文

土木学会 専務理事

今年最後は、土木学会専務理事の大西さんにお願ひしました。来年の100周年に向けて学会のビジョンとりまとめにも重責を担うなかでお読みになる本とは？

最

初は好きなことにまつわる本、
として山に関するもの。名著
深田久弥『日本百名山』、決してパロ
ディではなく奥深い小林康彦『日本
百低山』、いずれも捨てがたいが今回
は小泉武栄『山の自然学』を薦めるこ
とに。学生時代から山に親しみ何十
年と山登りを続けているうちに、単
に楽しいだけでなく自然への畏敬の

念が強くなってきたとおっしゃる。

日本の山々の植物分布や地形・地質
の様相に秘められた謎を一つひとつ
解くように語るこの本は、山へのま
なざしを新たにしてくれる。大西さ
んご自身が裏表紙に綴った2001
年の読後の感想を拝借する。「地質学
的時間の流れの中で気候、地形の変動
に伴い、植物たちが移動する様をまる

で動画をみて

いるように想
像することが
できる。」

2冊目は塩

野七生「ローマ

人の物語」から

第11巻「終わ

りの始まり」。

ローマ帝国の



山の自然学
小泉武栄：
岩波新書



終わりの始まり
ローマ人の物語第11巻
塩野七生：
新潮社



道徳の系譜学
ニーチェ：
光文社古典新訳文庫

衰退を語る巻である。ここからは歴
史観を得ると同時に、どこかで現代
日本と重ねながら、国の栄枯盛衰と
はなにかを自分なりに思い描く。そ
れは、発展論の衰退不可避性とも
呼びうる感覚とおっしゃる。ニヒリ
ズムに陥るのではなく、歴史の現象
とクールに向き合おうという大西専
務の姿勢がほの見える。

起きたときに道徳が生まれたという。
個人として生きる人間が社会という
大集団として生きることによって必
然的に生じる社会構造と階級闘争。
そのダイナミズムの中で道徳という
概念を位置づける西洋人の思想。あ
る種のカルチャーショックでもあつ
たとおっしゃる。

大西専務は学会誌の編集委員会に
も時折姿をお見せになる。土木学会
というソサイエティでもあり組織で
もある場で、いつも物静かに議論に
耳を傾けておられる姿が、ふとご自
宅で静かに本を読む姿と重なった。
それはどちらも知識や情報収集のた
めではなく、ご自身のお考えを育むた
めの行為であるように拝察した。

OHNISHI Hirofumi

1953年大阪市生まれ。1978年京都大学大学院修了。建設省入省後、在マレーシア大使館、アジア開発銀行、環境庁、土木研究所、国土技術政策総合研究所等に勤務。専門は環境調和技術、交通計画。

